

2008年度（2008年4月～2009年3月）

< 回答22団体 >

共通商品券・プリペイド実績調査結果

< 決算月は会により異なりますが本調査では、2008年4月から2009年3月の実績としました >

1. 発行回収状況

発行額増は12団体55%、減少は6団体27%

回収額増は10団体45%、減少は8団体36%

【発行】

前年同期比4%以上増加は12団体55%（07年度は35%）、4%以上減少は6団体27%（07年度は48%）。発行額全体では前年同期比7%増（07年度は6%減）。

板橋区振連の199%増は、07年度は発行しなかったプレミアム商品券1億1,000万円を発行したことが主因。

協組高岡市商店街連盟の15%増は、高岡市勤労者福祉サービスセンターが12月から2月にかけて、会員サービス用に約1千万円分を購入したことが主因。

【回収】

前年同期比4%以上増加は10団体45%（07年度は35%）、4%以上減少は8団体36%（07年度は43%）。回収額全体では前年同期比5%増（07年度は3%減）。

板橋区振連の158%増は発行増が主因。

春日部市商業協組の16%増は、発行額が9%増加したことのほか、不況で手持ちの商品券を使う消費者の増加が考えられるという。

全体平均の回収率はちょうど100%。回収率100%超は15団体で回答団体のほぼ3分の2。

大型店の回収比率では、協組新潟市商店連合会の95%、長岡市共通商品券協組の84%が群を抜く。いずれの団体も大型店の発行額比率が80%を超えている。

発行額1位のはちのへ共通商品券協組の大型店回収率は32%。数年前は50%を超えていた。これは、発行額トップの大型店が自社商品券優先という方針で同協組の商品券販売を抑制するようにしたことが主因。

2 . 08 年度の主な動き

プレミアム商品券

- ・田辺市商業協組は、08年11月に850万円分（5%のプレミアム含む）を販売した。
- ・板橋区振連は、共通商品券発行20周年及び区商連設立55周年を記念して、08年秋に1億1千万円分（10%のプレミアム含む）を販売した。

発行停止

- ・協組草津スタンプ会と須坂商業サービス協組が共に09年1月に発行を停止した。
草津は、規模が小さかったうえに、一昨年、町内に大型葬儀店が開店してから商品券の利用が減少したことなどのため。
須坂は、加盟店の売り上げ低迷や廃業などで、発行、回収とも減少傾向が続いていたため。利用期間が短期のプレミアム商品券の発行を検討中。

3 . 09 年度以降の主な動き

医師会・歯科医師会と申し合わせ

板橋区振連は、区医師会・歯科医師会と申し合わせ、09年4月から共通商品券で治療費の支払いができるようにした。調剤薬局の取り扱いが多いという。

定額給付金がらみのプレミアム商品券

生活者支援と地元経済振興のため、国が予算をつけて、国民1人あたり1万2千円（65歳以上と18歳以下は2万円）に現金を支給するという定額給付金事業。

多くの市区町村がこの定額給付金を、消費浮揚と地域商業活性化につなげるべく、地元商業団体などのプレミアム商品券販売を支援した。

本調査（共通商品券とスタンプ・ポイントカード）協力団体に、プレミアム商品券についてアンケートをお願いしたところ、13団体からご回答をいただいた（表1参照）。

商品券を有効期限付きに

はちのへ共通商品券と協組高岡市商店街連盟は、09年度中ないし10年度から、現在無期限有効の共通商品券に有効期限を設ける方針を決めた。

すでに有効期限をつけているのは6団体（表2参照）。

